

ばってん

事務長会報第56号

令和6年10月1日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北高等学校内

〒851-1132

長崎市小江原1-1-1

電話 (095) 844-4411

「個人的ダイバーシティ論（卒業編）」

佐世保中央高等学校 岡田 明美（調査部長）

新任事務長の私がばってんに寄稿した時の表題がたしか、「個人的ダイバーシティ論」であった。内容は「女性は何で事務長になりたがらないのか、その訳」「性別関係なく個性を活かした事務長登用を（多様性の受容）」であったか。

あれから月日は流れた。果たして私は成長したのだろうか、はたまた進化したのだろうか。はなはだ疑問である。ここから先は常日頃思っていることを、つれづれに「雑記」として書き留めてみる。ばってんの巻頭に相応しいものとは言い難いが、最後までお付き合いいただきたい。

■改元

社会人になって、昭和→平成→令和と2回元号改正を経験。平成発表は昭和64年1月7日土曜日。日本中が自粛ムードの中、当時仕えた小学校長宅で発表を見た。昭和最後の日であった。「令和」発表の平成31年4月1日月曜日。仕事であったが、テレビに釘について待った。令和、最初ピンとこなかったが、その意味を知るうちに好きになった。万葉集研究の第一人者、中西進氏の「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首序文から「初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やわら）ぎ、梅は鏡前（きやうぜん）の粉（こ）を披（ひら）き、蘭（らん）は珮後（はいご）の香（かう）を薫（かお）らす」国書からの典拠は珍しく和の心を導んだと言える。折しもインバウンド興隆期、多くの外国人を受け入れる社会において改めて日本人のアイデンティティを再認識する。令和は、己を知り他者を尊重する世界になると感じた。私は私で女子寮の壁に対馬を詠った万葉集のポスターを貼った。この後、受難の時代（新型コロナウイルス）が来ることなど知る由もなかった。

■劣等感と個性

実は子供のころから劣等感の塊ですぐに人と比較し落ち込む人間であった。人は私の性格や容姿を面白がり、好き勝手にあだ名をつけた。この歳になってもそれらの屈辱的なあだ名を思い出すことがある。いかに自分が我慢を強いられていたか。しかし今はあの時のあだ名は、自分は自分、私は変われる、肯定と変容のためのものだったのかなと思う。つけてくれたあの子らにありがとうと言いたい。劣等感も個性である。※あだ名は秘密

最近の若い人たちは自己肯定感が低いと聞く。おそらく

たくさん褒めてもらえなかったのだろう。だからではないが、「いいところ見つけ出し作戦」を実施中。おとなしい＝落ち着いている、仕事が遅い＝丁寧慎重、反抗的＝元氣・改革派、落ち着きがない＝行動派・好奇心旺盛、泣き虫＝感情豊か、など心の中で言い換えをしている。※今の職場のことではない。多様性の受容、個性を大切にすることで組織が活性化する。

■相手を受容するために、相手から受容されるために

◇好意の返報性→自分に好意を向けてくれた相手には、好意を抱く◇笑顔の返報性→自分が笑顔でいれば、相手も笑顔を返してくれる◇ピグマリオン効果→相手に期待を持つことで、相手はその期待に応えようとする◇ネームコーリング効果→〇〇さん、おはよう、〇〇さんよく気づいてくれたね。〇〇さん、ありがとう。人は自分の名前を呼ばれると親しみを感じ相手に心を開く◇ミラーリング効果→相手と同じ仕草や言動、仕事振りなどを真似することで、自然と相手の良さを感じることができる※やり過ぎ禁物、自然に

■これからのこと

さて、これからの私、タンポポの綿毛のように生きてみたい。綿毛は誰にもぶつからない。たとえぶつかったとしても痛くない。風に乗ってフワフワとどこにでも飛んでいき着地点も分からない、そんな生き方がしたい。そう思う今日この頃。

余談ーこの春、息子が就職した。長い単身赴任生活で子育てもせず、親らしいこともできなかった。しかし息子は育っていた。はなむけに「挨拶、お礼、お詫びがきちんとできれば、社会人として一人前」と手紙を送った。

最後に。いよいよあと半年、事務長会に育てていただいたことに深く感謝するとともに、これからの長崎県公立学校事務長会のさらなる発展をお祈りしペンを置きたい。



還 暦

長崎西高等学校 小林 英樹



大学を卒業後、警察官として採用されたのが38年前。当然60才で定年する時も、警察官として退職する予定だった22歳の春。しかしながら、予定どおりにいかないのが世の常で、2年で退職し、平成2年4月に学校事務職員として、佐世保

工業高校定時制に赴任しました。当時は、生徒数が300人を超えており、未納者が多く、督促の電話や担任と自宅訪問をしたことが印象に残っています。その後、大村高校で柔道やハンドボールで生徒と関わり、体育保健課ではO157と出会い、長崎西高校へ異動となりました。

長崎西高校は、平成9年～平成14年度まで6年間勤務しました。施設・設備担当として、大規模改修約20回、改築3回、維持補修に係る入札等が約30回と工事ばかりしてい

たのですが、それに加えて苦情処理、ALTの担当、50周年行事等、多種多様な経験をした時期であり、その後の勤務先ではこの6年間の経験が役立っていると思っています。

平成15年3月、もう2度と西高へは来ることはないと思いつつ、長崎式見高校へ。

長崎式見高校は、平成20年3月に閉校した学校です。5年間在籍し、閉校事務を経験させてもらいました。今後解体されるようで寂しい限りです。その後長崎東高校を経て事務長として今の長崎西高校で4校目になります。最後の3年間、2回目の長崎西高校を事務長として勤務することは、予定外でしたが、何かの縁と思い最後の1年を頑張りたいと思います。ただ、この学校は、自分には優しくしてくれません。

事務長会では、12年間お世話になりました。コロナでなかなか会議等ができない時期がありましたが、コロナが終わり、事務長会が通常な状態に戻り、今年度は、全国大会開催ということで相互の連携が図られたと思います。今後とも事務長会として、県教委・校長会・関係機関と連携しながら、発展していただきたいと思っています。

定年延長で我々世代は、62才が定年となりますが、役職定年ということで今回寄稿しました。来年度以降は、どうなるかわかりませんが、異動で赴任した際にはよろしくお願いします。

せていただきました。本当に懐かしい思い出です。

その後は長くて7年短くて1年というスパンで、9回の異動を経て現在鹿町工業高校に勤務しています。

事務長としての勤務は2校目ですが、事務職員の頃は、自分が事務長になるなんて考えたこともなかった（考えたくなかった？）です。それまで仕えた事務長さん方がなさっていた業務を自分がするなんて想像すらしたことがありませんでした。なので、前任校で事務長ということで内示を受けた時には、目の前が真っ暗になり体の震えが止まりませんでした。ただ勤務校はそのまま、さらに前事務長さんが再任用職員として傍にいてくださるという前代未聞の配慮をさせていただいての昇任でしたので、ありがたいし申し訳ないし、もう前に進むしかないという思いでした。

これまでそれぞれの職場で多くの方々から助けていただき支えていただきました。そしてここまでこの仕事を続けることができたのは、この38年間に会った皆様のおかげだと心から感謝しています。本当にありがとうございました。恩返しのできる気持ちで来年3月までしっかり職責を果たしていきたいと思います。お世話になりました。



助けられて支えられて・・・

鹿町工業高等学校 熊井 恵子

会報「ばってん」への寄稿について連絡があり、とうとうこんな歳になってしまったなあと今年度末に役職定年を迎えることを強く実感しているところです。以前だったら定年退職だったけれど今は役職定年、ゴールのように思えるけれどゴールでないようにも思えたりするし、今後をどう過ごすかも本人次第ということで、何ともいえない不思議な気持ちです。

思い返せば38年前の3月、当時の五島商業高校の校長先生から内示の電話をいただきました。「うちの学校は島にあるんだけど来ますか？」と尋ねられたのを思い出します。私は、赴任地が島であろうとなかろうと初めて一人暮らしでできることがとても楽しみで大喜びだったのですが、この校長先生には私と同世代のお嬢さんがいらっしゃったからでしょうか、心配をしてくださったのお言葉だったようでした。

この五島商業高校に勤務したのは昭和の終わりの古き良き頃、事務室は単身赴任されていた事務長さん、10歳年上の先輩職員さん、2人の用務員さんというメンバーでアットホームな雰囲気の中、何もわからない私に学校事務職員としてのノウハウを教えてください、とても楽しく過ごさ

「渡る世間に鬼はなし」

鳴滝高等学校 麻生 政登

初任校は大瀬戸町（現西海市）の西彼杵高校で、事務室か

らは青く美しい角力灘が見え、海に沈む夕日はとても美しく、海をよく眺めていました。学校では、旅費、給与、施設、契約事務など一通りのことは経験しましたが、今回30年ぶりの学校勤務ということで、異動発表があつてからは、鳴滝高校からは海が見えないのでどこを眺めて過ごそうかなと思うと

ともに、「仕事のやり方は昔とは違うのだろうか」などと不安な毎日でした。

この30年間、私は教育委員会で勤務するほか、文科省や知事部局で勤務しました。文科省や知事部局では、租税条約や社会保障協定、査証問題に係る業務のほか、東南アジアの商社や船会社への県産品等の売込み等の業務に携わり、世界各国を回りました。特に一人ですべて訪れる国々（特に英語を母国としない国）においては、何度訪れても緊張と不安の連続でしたが、行く先々では多くの人々に助けられ、「渡る世間に鬼はなし」を実感しました。

4月1日の朝は30年ぶりの学校出勤ということで、目が早く覚め、まるで海外出張にでも行くような緊張と不安が最高潮の中、学校の満開の桜が出迎えてくれました。事務室に鍵を開け入ると、いきなり電話。「機械警備を解除して下さい」とのことで、警備会社の指示に従い、何とか機械警備を解除し、

一人で事務室にただで不安が募ります。パソコンの電源を入れてみるも、新品に代わったPCは起動しません。涙が出そうになっていると程なく、事務室の皆さんが出勤し、次々にかかる電話の対応や、PC等の設定等も行ってくれました。文書量は30年前より増え、次々と「わんこ蕎麦」のように文書等が山積になっていきます。10年一昔と言いますが、30年と言えば大昔。完全に浦島太郎状態ですが、事務室をはじめ周囲の皆さんに支えられながら、3か月経過。「渡る世間に鬼はなし」「笑う門には福来る」ということで、これらも皆さんよろしくお祈りします。



憧れの「事務室勤務」

鶴南特別支援学校 山田 春仁



13年振りの学校現場です。

13年振りの自家用車出勤です。※5Kg 太りました...

13年振りの8時台からの勤務です。
※寝不足になりました...

この13年間毎年開催された、夏の事務研、春・秋の事務長会では、県教委事務連絡に毎回参加し、「次回こそは事務連絡を受ける側に……」と言い続け、「出る出る詐欺」と誹りを受けながらも、現場の皆さんと繋がりを持ち続けた努力(?)がやっと報われました! ※昨年度の人事担当者に感謝感激雨霞!!

令和6年4月1日、6時50分に自宅を出発。旧市民病院前辺りから渋滞に巻き込まれ(大昔、野母崎高校勤務の時と変わってない)、「初日から遅刻は洒落にならんど〜!!」と叫

びつつ、朝の打合せ(8時5分開始)の2分前に学校到着! そんなドタバタした新年度の始まりでした。

初めての事務長職は、やっぱり見るのとやるのとでは大違い! 一番戸惑ったのは、人事具申関係事務です。前任の事務長さんが引継書に事細かく残しておいてくれたおかげで、何とか乗り切れた感じでした。 ※しかし、まだまだ続きます... 多分... きっと...

でも、やっぱり、現場はサイコーです! 気分は上々! 特に本校の事務室は!! ワイワイガヤガヤで、事務長が発言するスキを与えてくれません。 ※「ちょっと、俺に喋らせろ!」ということも...

そんな、和気あいあいの雰囲気の中、日々新たな発見(衝撃)を見つけながら、業務に動んでいます。

役職定年まで3年を切った今、初めての特別支援学校勤務の中で、「自分に何ができるのか」、「自分に求められている役割は何なのか」を頭の隅に置きながら、「事務室勤務」を謳歌しています。

みなさん、よろしくお祈りします。

初めての県立学校勤務

西彼杵高等学校 恵島 圭子

西彼杵高校に着任した令和6年4月1日は月曜日で、1週間が長いあと少し憂鬱でした。十数年ぶりの学校勤務、しかも初めての県立学校勤務でさらに事務長。事務長の仕事を身近で見たことがない私にとっては、緊張の初日です。その緊張が1週間続く...

しかも3月までと比較して2時間早く家を出ないといけないということもあり、朝が得意ではないことも相まって身体が持つかと不安でした。

しかし、いざ勤務が始まってみると、しなければいけないこともたくさんあるし、わからないことだらけで時間ばかり過ぎていき、緊張とかしている暇はありませんでした。

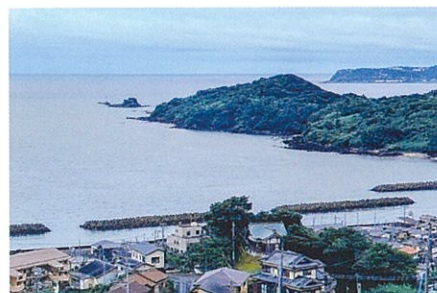
引継書と過去の書類を交互に睨みながら、しなければいけないことを見落とししていないか、これで間違いはないのかと2回、3回確認し、大丈夫と思って念のためとうとう1回見たら間違いに気づくということを繰り返していたら、

あっという間に金曜日を迎えていました。

そんな感じで2週間、1か月と過ぎていき、周囲の方々に支えていただきながら、何とか今までやってこられている感じです。

でも、思っていたより早起きも苦にならないし、往復2時間の通勤も負担に感じることはありませんでした。晴れた日の国道202号を運転するのはとても気持ちがよく、いい気分転換になっています。事務室から見える海を眺めながら、久しぶりに給与事務と旅費計算をしていると、学校で勤務しているという実感もあり、楽しくもあります。

まだまだわからないことも理解できていない状態ですので、諸先輩方にお尋ねすること多いかと思いますが、よろしくお願いします。



西彼杵高校から眺める景色

伝える力

教育次長 坂口 育裕

教育庁での勤務も早いもので数か月が過ぎました。

職場が変わると、ちょっとしたルールの違いに戸惑ったり、その職場ならではの独特な雰囲気を感じたりなど、様々な発見がありますが、教育庁の特長は何はさておき、教職員の皆さんの話の上手さ、これに尽きるのではないのでしょうか。

学校現場とは異なる環境の中でも、子どもたちを優しく諭すかのような語り口はそのままに、丁寧に言葉を紡ぎ、思いを伝える皆さんの姿には、確かな「伝える力」の存在を感じます。伝える力と言え、今から6年前になりますが、広島市の平和記念式典における知事挨拶の一節を思い出します。

今日は、その言葉をご紹介したいと思います。その前に、皆さんは「非核三原則」を覚えていますか。核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」という日本政府の基本方針で、79年前の原爆投下によって、世界で唯一の戦争被爆国になった我が国は、この三原則を掲げて「世界から核兵器をなくす」という立場をとっています。

それでは「核抑止論」という言葉はご存じでしょうか。現在、核兵器を保有している国は、ロシア、米国、中国、フランス、英国、イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮の9か国とされています。核抑止論とは、これらの国が他国を核兵器で攻撃した場合に、その報復として核兵器による反撃が想定されるため、自国の破壊的な被害を恐れて、最終的には核兵器の使用を思い留まる、という論理です。

我が国は、前述のとおり「世界から核兵器をなくす」という立場をとっていますが、その一方で、核兵器の使用をほのめかす北朝鮮等の現実の脅威を前にして、米国の核兵器に大きく依存しており、被爆者をはじめとする核兵器廃絶を願う人々の切なる思いとは逆行するような状況となっています。

また、核兵器保有国は、抑止力を強化するため、新たな核兵器の開発に巨額の予算を投入しているともいわれており、こうした危機的ともいえる国際情勢の中で、広島県知事は日本政府に対し、唯一の戦争被爆国として核兵器廃絶に向けたリーダーシップを発揮するよう、次のように呼びかけました。

『いいかい、うちとお隣さんは仲が悪いけど、もし何かあれば、お隣のご一家全員を家ごと吹き飛ばす爆弾が仕掛

けてあって、そのボタンはいつでも押せるようになってるし、お隣さんうちを吹き飛ばす爆弾を仕掛けてある。一家全滅はお互い、いやだろ。だからお隣さんはうちに手を出すことはしないし、うちもお隣に失礼はしない。決して大喧嘩にはならないんだ。爆弾は多分誤作動しないし、誤ってボタンを押すこともないと思う。だからお前は安心して暮らしていればいいんだよ。』

一体どれだけの大人が本気で子供たちにこのような説明をできるのでしょうか。

良き大人がするべきは、お隣が確実に吹き飛ばす爆弾に工夫をこらすことなく、爆弾はなくてもお隣と大喧嘩しないようにするにはどうすればよいか考え、それを実行することではないでしょうか。

私たちは、二度も実際に一家を吹き飛ばされ、そして今なおそのために傷ついた多くの人々を抱える唯一の国民として、核抑止のくびきを乗り越え、新たな安全保障の在り方を構築するため、世界の叡智を集めていくべきです。… 私たちの、そして世界中の子供たちに、本当の安心をもたらしてやるために全力を尽くすことが、我々日本の大人たちの道徳的責任だと確信いたします。』

この言葉が、政府要人の心に届いたのかどうかは分かりませんが、核兵器のない平和な世界の実現を目指して活動を続ける方々に大きな勇気を与えたことは間違いありません。平和の世界も教育の世界も、ひとりでも多くの方々が、傍観者ではなく当事者として主体的に関わっていくことが重要であり、「伝える力」にはそうした大きな流れを創り出す力があると感じています。教職員の皆さんのひたむきな姿から、日々多くを学びたいと思っています。



編集後記

第56号を発行するにあたり、ご寄稿くださった皆さまに心よりお礼申し上げます。

本県での全国公立学校事務長会の開催まであとわずかとなりました。ここ長崎は古から日本の窓口として、海外から先進文化や技術が伝えられ、それを学びに全国各地から先駆者が集いました。風頭の「竜馬がゆく」文学碑には、「長崎はわしの希望じゃ」と刻まれています。多様化が加速する現代社会においても、参加者が未来に希望を持てる大会になればと思います。また、

この機会にぜひ本県の歴史や自然、文化、食等を体感してほしいものです。例えば、長崎市内には「〇〇発祥の地」と記した碑を散見することができます。鉄道、活版印刷、国際通信、缶詰製造、ボウリング場など。それぞれのルーツを求めて、思いを馳せるマニアックな旅もこの街の魅力と言えます。何よりも、我々の英知を集めて運営する大会が盛会裏に終え、秋の事務長会で楽しい慰労会ができるといいですね。(M・K)